

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業所 ぱれっと		公表日		2026年 2月 28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	こどもの様子に応じて部屋を仕切って使い分けられる。 食事、睡眠、活動の部屋を分けて使用している。	引き続き、活動などに合わせて、部屋を広く使っていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	利用定員に対する職員配置は適切。それ以上の配置があり状態に応じて対応できている。	引き続き、複数名のスタッフを配置し、個別の対応を行っていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	利用しやすい部屋の設定を行っている。 (絵カードや写真など) 室内は全てバリアフリーになっており、給食室も設備が整っている為、子ども達も理解しやすい。	引き続き、子どもたちに分かりやすい環境を作っていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	朝、夕方と掃除をし、清潔を保てるように心掛けている。 活動に合わせて部屋を使用している。	引き続き、清潔を保てるように毎日掃除や消毒を徹底していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	活動の状況に応じたスペースの確保が出来るよう、パーティションの開閉が出来るようになっている。また、クールダウンができるスペースもある。	引き続き、状態に応じ一人でも使える空間の設定を行っていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	毎日の振り返り、毎月の目標設定を行い職員も参画で来ている。 活動後の反省をすることで新しい気付きや改善点等を行うことが出来る。	引き続き、目標設定と振り返りを会議などで話し合い、共有していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	評価表は集計を行った後の会議で、職員間で話し合い、改善に繋げている。	十分な説明を行い、施設と保護者の方の意向が解離しないように心がけていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	定期的にミーティングを実施・業務改善ボックスを設置し意見を出しやすい環境を整えている。 気付いた時に報告出来る様、各係りの話し合いが週に1回以上設けられている。	引き続き、会議を通して意見を出し合っていく。出た内容を業務改善係に提出し、よりよい支援が出来るように改善していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1	研修会等を行い改善につなげている。 監査を行い、指摘された点を取り入れている。	第三者による外部評価を受ける機会を検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	月に一度研修を開催・研修は月に1回必ず行っている。 外部講師によるタイムマネジメントの研修があり、全職員が受講している。	引き続き、資質の向上を図る為に研修を行い、現場で生かしていく。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	無理のない支援プログラムを作成し、チームで取り組んでいる。 ホームページにて公表している。	引き続き、適切な支援プログラムをその都度、作成し、ホームページにて提示していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	保護者との情報交換も常にしており、保護者の希望を取り入れ無理なく作成している。	引き続き、アセスメントを行いながら、会議で課題などを分析し、計画書の作成を行っていく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	定期的に支援計画に基づいての振り返りを行う事で、職員全員の意見を反映した支援計画を立てている。	引き続き、会議で情報共有していく。 また、子どもの最善の利益を考えて計画書の作成する。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	随時ミーティングを実施・共有、支援されている。常に変化に気を配り計画に沿った支援を行っている。	引き続き、計画書に沿った支援が出来る様に職員間で情報共有を行っていく。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	事業所が作成したアセスメントツールとともに、利用者に合わせた評価ツールを使用している。	引き続き、子どもの個々に合わせたアセスメントツールを使用していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	家族の方の協力も得て「地域支援」「地域連携」を踏まえながら支援内容を設定している。	保護者の方への共有を確実にやっていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	定期的な会議で、職員全員で活動プログラムの立案を行っている。	引き続き、子どもたちの反応を見ながら活動を決めていく。また、子どもたちが行きたい場所や遊びたいことを聞きながら活動に反映させていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	職員全員で立案することで、常に新しいプログラムを考えることが出来ている。前回の反省を活かしてよりよいものを作ろうとしている。	引き続き、マンネリ化しないように活動を考えていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	発達の個人差に応じて個別の支援を行ない、集団活動も無理なく行っている。	引き続き、実施内容を保護者の方に共有、説明を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	支援の内容や役割分担を朝礼などで情報を共有している。毎朝1日の流れを確認し、理解して行動出来るようにしている。	引き続き、共有の漏れがないように会議ノートに記載していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	振り返りや反省の機会を設け資料として残すなど工夫している。	引き続き、記録に記載し、次の支援に繋げていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	経過記録を記入し、その日の様子を残している。反省化で意見出し合い、終礼で気付きや反省を話している。	引き続き、毎日記録をとる。その中で、改善するものがあれば改善し、支援の質を高めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	定期的な会議で、職員全員で支援計画に基づいた話し合いを行い、見直しが出来ている。	引き続き、会議で見直しをしながら、できているところはまだもう少しのところを見極めていく。
関係機関や保護者	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	児童発達支援管理責任者、担当のスタッフが参加している。	他のスタッフも会議に入れるように機会を設けていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	保育所等訪問事業も行っており、連携の体制は整えている。	情報共有の方法を考えていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	カンファレンスやお互いの施設の見学など実施している。	引き続き、支援内容等の情報共有、相互理解を図っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	小学校や支援学校には、保護者を通して情報共有が行っている。	引き続き、情報共有を行いながら、相違理解を図っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)		0	0	
	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。		0	0		
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	0	0			

この連携	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	0	0		
	31	(31は、事業所のみ回答)	2	3		
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			センターとの連携は、あまりとれていないと感じる。	センターの存在意義、人材交流、育成の機会。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	0	自施設が保育所を経営していることもあり、交流する機会はある。	他の施設や地域の子どもたちとの交流の機会を設けていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	お迎え時に保護者とコミュニケーションをとる中で、こどもの様子を共有し、課題への取り組みを話し合う事が出来ている。	引き続き、面談などを行い親御さんの思いを聞く機会を設けていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	0	定期的に保護者会を開催している。	引き続き、保護者会を通して、研修の機会を増やしていく。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	入所前に説明を行い、保護者の疑問やより細かな説明を求められた時には、都度対応を行っている。	引き続き、丁寧な説明を心掛けていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	職員の共通理念として、子どもの幸せの為に優先している。その為に保護者の意向をきき尊重する。	引き続き、子どもや保護者の方の思いを踏まえて計画書を作成していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0	児童発達支援計画の読み上げを行い、ひとつひとつの項目に保護者の同意を得ている。	引き続き、分かりやすい説明を心掛ける。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	毎月、面談希望の有無の確認をしており、急な相談があれば早急に面談を行い助言と支援を行っている。	引き続き、定期的な面談を行いながら、助言や支援を行っていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	定期的な保護者会を行っており、保護者が交流出来ている。また、その時にきょうだいも付き添っており、交流機会を設けている。	きょうだい同士の交流が出来る機会を検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	保護者からの相談や申し入れがあった場合、責任者に報告を行い、面談等を設けている。	引き続き、面談の実施や声掛けを行っていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	一カ月毎の通信を発信し、SNSやホームページを活用している。活動内容や行事予定のSNSでの発信、連絡等も情報共有出来ている。	引き続き、保護者の方に発信していく。行事についてもその都度、LINEをしていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	定期的な個人情報についての研修や、朝礼や終礼時に会社のルールとしての確認を行っている。	引き続き、個人情報の取り扱いには、細心の注意を払っていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	細やかな配慮がなされている。発語がない子どもにもジェスチャーなど分かりやすいコミュニケーションを行っている。	引き続き、理解しやすい言葉で伝える、紙媒体で伝える、事前に伝える等の配慮を行っていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0	地域に向けてさつま芋詰め放題を開催している。農産物などの収穫の時に地域の人たちにもお知らせし、招待している。	地域の方と交流できるイベントを検討していく。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	マニュアルの策定・訓練共に実施している。ご家族への周知も通信などでお知らせしている。	引き続き、マニュアルの見直しを行いながら、保護者の方に周知していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	研修、訓練を行い、実際に震度5以上の時には安否確認をしている。	引き続き、見直しや検討会を実施していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	1	事業所での服薬の際には、服薬依頼書を保護者に記入してもらうようにしている。前に確認し、服薬の内容変更や予防接種の状況を保護者から情報提供が来ている。	引き続き、服薬方法や服薬が難しい時の工夫を検討していく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	アレルギー対応をし、お皿を他児と変えたりしながら間違いのないようにしている。完全除去している。	引き続き、誤食のないよう座席や食器などを工夫していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	研修の中で、実習や訓練を行っている。	引き続き、フローチャートなどを用いて、定期的な見直し、改定を行っていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	保護者の見学時に安全への取り組みを説明をし、研修内容をSNSで発信をしている。	引き続き、安全確保の実施を分かりやすく周知できるように工夫していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	各スタッフがあげたヒヤリハット報告を、委員会が検証し方策を検討している。ヒヤリハットを回覧で回し、情報の共有が来ている。	引き続き、再発防止に努めていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	研修会を実施、外部研修会への参加も積極的に行っている。	引き続き、適切な対応が出来るように研修を行っていく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0	児童発達支援計画書作成前に、保護者とやむを得ずの身体拘束をしなければならないかどうかの確認ができています。	引き続き、分かりやすい説明、相互理解を行っていく。	